

報 医 生 世 々



目 次

- 巻頭言 「高田診療所開設より2年経て」
気仙医師会 副会長 鶴 浦 章… 2
- 理事会報告…………… 3
- 随 想
「川あなどるべからず」
医療法人けやき会 菊池医院 菊 池 洋… 5
「そなえよ つねに」
えんどう消化器科内科 遠 藤 稔 弥… 6
- 医院紹介 山崎内科医院 院長 山 崎 一 郎… 8
山 浦 医 院 院長 山 浦 玄 悟… 10
- 県立病院各科紹介
岩手県立大船渡病院 泌尿器科 氏 家 隆… 11
- 事務局日記…………… 13
- 編集後記…………… 14
- 表紙のことば…………… 14



第 1 2 7 号
2013. 10. 25

気 仙 医 師 会
岩手県大船渡市盛町字内ノ目 6 - 1
TEL:0192-27-7727 FAX:0192-26-2429
<http://kesen-med.or.jp/>

巻頭言



高田診療所開設より2年を経て

気仙医師会副会長

鵜浦医院

鵜浦 章

高田診療所は、先の震災で壊滅的な打撃を受けた陸前高田市の医療を支援すべく設立された。当初トレーラーハウス2棟で計画されたが、後に一中の日赤仮設診療所跡を借り受けることが決まった。当時を顧みて、合理的な選択と合点したのを覚えている。これにより皮膚科、小児科、整形外科など需要が多いと予想される診療科を加え、総合診療所として当地の医療に寄与すると思われたからである。

実際、開設後の集計では多くの市民がお世話になっており、当院においてもかかりつけの患者さんからよく受診の話を聞く。急性上気道炎など急性内科疾患、外傷、蜂窩織炎など外科疾患、皮膚疾患、耳鼻科疾患など多診療域に及ぶが、土・日など当地医療機関の休診日に診療していただけるのが有難い。そして、県医師会からは一貫して地元医療機関の事情を尊重していただいている。前述したように設立診療科、診察日の他、急性疾患中心の診療、インフルエンザ、肺炎球菌の予防接種についても御配慮いただいたものである。このように県と地元医師会の連携、協力が順調な運営の一因と今更ながらに思うのである。

ただ、2年を経過した現在高田診療所も過渡期を迎えている。H25年8月からは平日診療は取り止めとなったが、バス路線であるBRT、デマンドタクシーなど交通機関が徐々に復旧して来ており、縮小の時期として納得するところである。今後は、皮膚科、整形外科、小児科診療所が当地に開業することが最も望ましいが、不足部分は遠隔診療、鍼、心のカウンセリングなど保険外診療も選択肢の1つと考えている。

最後になったが、貴重な休日を返上して当地に赴任していただいている先生方、県医師会関係の方々に厚く御礼申し上げたい。

随 想

「川あなどるべからず」

医療法人けやき会 菊池医院

菊 池 洋

今、台風18号のテレビ報道を観ながら、これを書いている。目まぐるしく変る中継は土砂災害や洪水、暴風雨等その被害がかなり酷いことを伝えている。夕方には大船渡を通過するらしく他人事とは思えない。福島県南会津町では築場を見に行った男性4人が川に流されたという。そのニュースで四十数年前の記憶が蘇った。

その日は曇っていたが雨はなかった。私は弟と二人で青森県三戸町の馬淵川に鮎掛けに出かけた。目的の場所の近くには築場があり、その側を歩いて足首くらいの流れを5～6m歩き中州に着いた。早速竿を下し釣り始めたが釣果はさっぱり。でもそれが幸いしたのかもしれない。水嵩が少し増えてきたので釣を止め、すぐ竿をたたみ中州を後にし引き返した。が、すでに流れは強さを増し、先刻の足首が膝の辺りまできていた。渡ろうと急いだがみるみる水量は増え、激流と化し途中で動けなくなった、築の杭にしがみついた。この時、水は腰の辺りまできていた。あっという間の出来事であった。もう駄目かと思った時、築場を見回りに来た人が我々を見付けてくれた。ロープを投げてくれて事無きを得た。後で上流に相当な雨が降ったと聞いた。川あなどるべからずを思い知らされた。

最近の災害は「今まで経験したことのない」とか「数十年に一度の」など想定外の規模のことが多いが、巷に聞く地球温暖化の所為ばかりだろうか。何か自然の怒りを買っているような気がしてならない。

「そなえよつねに」

えんどう消化器科内科

遠 藤 稔 弥

小学校から中学校にかけてカブスカウトとボーイスカウトに所属していた。たぶん盛岡にしかなかったので気仙ではあまり馴染みがないかもしれない。制服や階級があり軍隊的なところがあった。活動内容はサバイバル教室のようなもので、ハンゴウでのごはんの炊き方、テントの張り方、ロープの結び方、火の起こし方、手旗信号などを学んだ。訓練の成果を確かめるため泊りがけの行事がよくありテントを張ってキャンプをした。夕食を自分たちでつくり、夜にはキャンプファイヤーを囲んで歌を歌い、テントで寝た。

そのカブ・ボーイスカウトの標語に「そなえよつねに」というものがあつた。非常時に備えるということである。長い間忘れていたのだが、鳥インフルエンザ流行の時に思い出した。鳥インフルエンザは当初感染すると致死率が高く、日本でも多くの死者がでるのではないと言われていた。想像していたよりは重大な事態にはならなかったがパンデミックを想定して自宅用としていくつかの非常用の物品を準備した。某セキュリティー会社が販売している防災用品セットの入ったバックパック、非常用飲料水、非常食、マスクなどである。2週間程度自宅で籠城するための準備である。最初は米も余分に購入して常に一定量備蓄していたが、これは途中でやめてしまった。

東日本大震災の時はこれらの準備がちょっとだけ役に立った。食糧は意外に流通の回復が早く結局手を付けずにすんだ。一番役に立ったのはバックパックの中の折り畳み式の水タンクと手回しで発電できる非常灯付ラジオだった。特にラジオは通信手段が壊滅した震災地では非常に有用だった。水タンクは飲用できる湧き水のあるところへ水を汲みに行く際に重宝した。その他のものでは、開業して間もなく、冬に停電して暖房が効かず寒い思いをした経験より購入してあった2台の反射式ストーブとその石油タンク、そして携帯用のガソリンタンクがある。震災直後はまだ冷え込みもきびしく、診療を再開したクリニックと自宅で暖を取るのに使った。携帯用ガソリンタンクは購入理由は忘れたが、ガソリンスタンドに行列ができた時期に、タンクを持って来れば給油するというスタンドがありガソリンを購入することができた。こうして振り返ってみるとまさか使うことはないと思っていた備品が役目を果たしてくれた。

いつ起こるかわからない非常時に備え、このエコの時代に何もなければ無駄になってしまうものをどの程度の準備をしておけばよいのか難しいところである。震災後にさらにLEDランタンとろうソク、家庭用蓄電池を購入した。その上、水の確保のため自宅に井戸を掘ったらどうか、電気自動車があれば停電時の電力が確保でき、ガソリンがない時でも車を使えるのではないかなどと考えた。ただし、電気自動車では大船渡から盛岡までは充電なしではまだいけないらしい。さすがにこれらは手を付けていないが。

スカウトの「そなえよつねに」という標語は、非常時に備えるという意味だけではなく、平時において日々の善い行いをする機会、たとえばからだの不自由な人に手を貸したり、お年寄りに席をゆずるなどそういうことに備えるという意味もあるようだ。

震災を機にこの標語の意味を再確認出来た。震災はもうこりごりだが、貴重な経験となった。近い将来南海トラフ地震が起こるとの予測もある。神奈川にいる娘には念のため防災セットを購入し保管させている。震災から2年がすぎその記憶ががうすれつつあるが、災害だけではなくこれから起こるさまざまな日常生活の問題に対しても、あわてずに対処できるよう日頃から準備を心掛けたいものである。

みんなの いわて を
医 協
ご利用ねがいます

医療用品カタログ通販 5,000品目満載 最大89%引き

医用印刷物・医療機器・医療事務機器・衛生材料
等々・保険事業・医療廃棄物処理事業(収集から
各種報告書作成まで)・福利厚生事業・労働保険
事務代行事業

TEL.019-626-3880

購買専用
フリーダイヤル 0120-054-222

FAX.019-626-3883

URL <http://www.ginga.or.jp/isikyoku>

E-mail isikyoku@rose.ocn.ne.jp



いわて医師協同組合

IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
〒020-0024 盛岡市東園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

医 院 紹 介

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

山崎内科医院 院長

山 崎 一 郎

病院紹介の原稿依頼が、ついにやってきた。

文才のない私にとっては大変なことである。文章を書くのはかなり昔、津波で亡くなられた 故石塚先生からのこの誌の随想の依頼、以来である。 黙禱

まず当院の建物であるが、私の親父、伊一郎が、私が医学部に入学してから私の知らないうちに着工し、医師となる前の昭和51年竣工、よって設計は古い。待合室は明るいが事務室が暗い、トイレも1つは洋式洗浄つき便器にしたが今の子供には使い方がわからないと言われている和式も残っている。

2階に19ベットの病室が有るが入院患者を入れたことが私には無い。

昔の全館温水暖房、一部冷房有は、全館使用するのでなければかなり能率が悪い。又、固定資産税が不必要に高い。

家に帰って来いと無言のプレッシャーは感じつつも、親父の目が黒いうちは好きなことを都会でしよう、大学院なぞへせっかく入ったところで、目が黒くなくなった。

仙台国税局からも「奇特なかたですねー」と認めてくれた特別養護老人ホーム富美岡荘の借金もあり、特別養護老人ホームには嘱託医が必要とのことも有り、東京から一人4トントラックに家財道具やがらくた全部積んで大学院の学費を返してもらうこともなく運転して帰って来たのでありました。

その後大船渡病院循環器科で修業して平成7年五月連休の後本格開業いたしました。

私的には結婚だの、いろいろ有りましたが最近の重大事件はやはり津波でしょう。私が小学生か幼稚園の時、津波後に大船渡に来たことがあり、大船渡湾に材木がかなり浮いていた記憶が有りましたが、そんな事態がわが身に降りかかろうとは…盛町内ノ目まで津波が押し寄せて来たとはいまだかつて聞いたことが無い！

前もその前の津波も地ノ森ぐらいで収まっていたはずで、言い伝えも残っていない！

世間では最初1000年に1回の大津波、その後400年に改訂されたようだが最低200-300年は来っていないのではなからうか？

台風の被害があった京都嵐山を見て解るように平地は川が氾濫して形成されたものであるし、岩手山や富士山はマグマがあれだけの量噴火してできたものだし、チョモランマはインドプレートとアジアプレートのぶつかり合い闘ぎ合って形成された物だし、最後に地球は小惑星や隕石のかったまりで水と大気がなければすぐ隣の月みたいにクレーターだらけになるはず。

人間の想定を超えた物で宇宙は形成されていることを忘れてはいけない。



というわけで当院は床上浸水、市から大規模半壊のお墨付きを頂いた。机の天板の下まで水没、卓上の物は助かったが下の物は全滅、紙カルテは殆ど上にあってセーフ。これが一番ありがたかった。MRIは撮影室がほぼ密閉のため床上数センチ水没のみだったが室外のコンピューターは水没、KW級送信機ラックの下にあったトランス水没、傾斜磁場ドライバー送受信機や磁石は生きているはずだがメーカーは修理拒否、今後外資系会社のMRIは使わないと心に誓った。

MRIを作るにあたって素人にとって手に入らないのはまず磁石、せっかく生き残っているのにもったいない！ 他の物は秋葉原に行けばなんとかなる。

あと5才も若かったら自分で作ってやるのだが、最近知力と忍耐力が落ちてきているのであきらめて、わずかな補助を貰って国産の機械に交換。まったく医療機械の補助はわずかなものでMRIに全部使っても半額にもならない。

今まで納めた税金はMRI全額補助してもありあまるぐらいなはずですが、まだ使いきれていない復興予算がいっぱい有るとか、沖縄のなんとかの費用に使ったとか、こんなことでは何年たっても復興が進むわけじゃないですよー 石塚先生～

病院紹介の本题にもどって、MRIは0.3テスラとなつて以前の0.2テスラよりは磁場が強くなり解像度が上がりました。復興費で良くしたのではないかと誤解されるところなので言い訳しますが超伝導ではない普通磁石のMRIは、現在の全世界でこの磁力より下のモデルは販売しておりません。

次に、経鼻内視鏡はラックの下にあった吸引ポンプと絶縁トランスが水没のみで損害は軽微なり。経鼻内視鏡は咽頭喉頭の反射がかなり遙減されるため（早い話が「おえー」と来ない）患者さんもやってる医師もとても楽です。

透視台は、年間の胃、大腸の透視件数が少ないため復興断念。貰いものが何だかわからない時に透



視して見るのに重宝していたのに残念！

X線撮影装置は無いと内科は仕事にならないので復興

超音波診断装置、以前は100kgもあって水没したため今度は持っても逃げられるようにラップトップコンピューターのタイプに復興

無散瞳眼底カメラ、津波後一時動作不良があったが回復。

心電計、台車の上にあつてセーフ

簡易聴力計は、ヘドロの中だったので新品に！

スパイロメーター（呼吸機能測定器）は、検査室の台の上にあつてセーフ

24時間心電計もセーフ

24時間血圧計は津波後に新たに購入

以上が当院にある検査機器です。

蛇足ですが、医療事務コンピューター全滅、ありがたいもので一時消息不明だった私を心配してくれた医大の同級生が送ってくれたものや製薬会社から頂いたのや2階にあつて免れたのをでっち上げて復興。

一番大事なのがスタッフは准看護師3名、事務3名の少数精鋭、年齢は適度にばらけており、個人情報とは公開できないことになっているので詳細は割愛させていただきますが、みなさんやさしい人柄が持ち味かなと思っております。

副院長 医学博士 山崎里美 大船渡病院の呼吸器科にもおりました。

優しい素敵な人です。

ちなみに私はその後勉強せず大学院中退のままです。

以上



山 浦 玄 悟

山浦は、代々医者の家系です。初代隆玄から数えて、私で10代目になります。

8代目が釜石に医院を開業し、その後越喜来に移りました。その医院は閉院しましたが、昭和61年に9代目である現理事長が盛に山浦医院を開業しました。そして、平成21年に私が戻り、継承しています。

盛に開業した当初は、現在の北側駐車場に建っていました。

旧山浦医院（1）は既存の建物を流用し、その上に二階建ての自宅を建てるという無理な構造でした。そのため、壁のひび割れなどの問題が生じ、平成19年に現在の医院（2）に建て替えています。

新しい医院の設計をしている時は、世の中ではゲリラ豪雨が話題になっていました。



（1）昭和61年 開業時の山浦医院です。理事長（当時46歳）の後ろに写っているのは兄（当時18歳）で、現在は埼玉で歯科医院を開業しています。

盛川の氾濫の噂もあり、できるだけ建物の基礎をあげて作ることにしました。もちろん、その時は盛まで津波が来るとは誰も夢にも思っていない。しかし結果的にそのことは、建物と設備の津波被害の軽減に大いに役立ちました。津波は床上浸水でしたが、建物自体に大きな損傷はありませんでした。（3）しかし、外回りにあったエアコン



（2）現在の山浦医院の新築時の写真です。施工者はバリアフリーのため低くするように勧めてきましたが、なるべく基礎を高くしたのは正解だったようです。

室外機や給湯器などはすべて壊れ、交換となりました。

しばらく経ってから、床暖房が効かなくなり、原因を調べたところ、床下の配管が津波のため腐食したためとのことでした。このように後から不具合が出てくることもあります。

検査機器は、ほとんど津波の被害は受けませんでした。しかし、地震で20tもあるMRIが数cm動いてしまい、位置の再調整と部品交換が必要でした。

現在は、レントゲンと透視、エコー、MRIなどの画像診断装置は震災前と同様に行っています。

消化器内視鏡も震災前と同様に上・下部とも行っており、病院機能は震災前と同様に回復しています。

今後も気仙地域の先生方と連携しながら、地域のかかりつけ医としての役割を果たしてまいります。引き続きよろしくお願い致します。



（3）津波翌日の医院前道路です。流されてきた車が重なり合い、道がすっかり塞がれてしまいました。

震災2日後から医院は再開しましたが、これらはすぐには片付きませんでした。

しばらくの間、患者さん達は瓦礫を越え、隙間を通して受診していました。

県立病院各科紹介

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

岩手県立大船渡病院 泌尿器科

氏 家 隆

私事で恐縮ですが、知命を過ぎて経験した大惨事の後、ふと在りし日のことがぼんやりと胸をよぎることがあります。先日は、幼少時、祖母の背中の竹籠に乘せられて畑に行ったことをふと思い出しました。祖父が若くして鬼籍に入り、幼心に祖母の苦労を肌身に感じていた私は、できもしない口約束をよく祖母に言っていたものでした。「大きくなったら、一生懸命働いて、いっぱいお金を稼ぐから。きっと、お祖母ちゃんを幸せにするから、長生きしてね。」いつもなら笑って頷く祖母が、その日だけは、私にこう言って懇々と諭したのです。「お金は必要だが、たくさんあっても決して幸せにはなれない。本物の幸せにめぐり合いたいなら、人のために尽くしなさい。それが唯一、幸せと逢える秘訣だよ。」そしてその数日後、祖母は他界しました。

さて、ある日の一日です。

朝5時過ぎに眼を覚まして、ラジオでニュースを聞きながら朝食の支度をしていると、電話が鳴りました。救急センターで当直中の研修医から、恐縮そうな、「相談なんですが」、という定型的な文言から始まる急患の診察依頼でした。尿閉の患者が来院し、経尿道的にカテーテルの留置を試みたところ、挿入が困難で、肉眼的血尿が見られるとのことでした。早急に身支度を整えた後、病院へ向かいました。尿道膀胱造影を施行し、レントゲン透視下にスタイレットを用いて、無事尿道カテーテルを挿入しました。膀胱洗浄を施行しても肉眼的血尿が消失しないため、点滴を開始し、本人と家族に病状と今後の方針を説明して入院としました。入院の指示を出し終えたところで、もう朝の8時を回っていたため、外来に行って電子カルテに向かいました。電子カルテになってから、

前日のカルテの整理や当日の準備に朝夕、必ず時間を要するようになりました。その後、外来の看護師らと、とりあえず、朝食の代わりにと、お菓子を食べながらお茶を飲み、その日の打ち合わせをしました。検尿の結果が出るまでに若干の時間を要するため、まず、予定していた患者や家族との病状や検査結果の説明が8時半から始まりしました。当科は、佐藤医師と二人体制ですので、その合間に、簡単に佐藤医師とも打ち合わせをしました。私は朝の内視鏡検査を一人済ませて、9時半頃よりいつものように一人で外来の診察を始めました。途中、休憩もなく、12時近くになって外来患者を4、50人ほど診察した頃、佐藤医師が病棟の入院と透析患者の回診や処置を終え、外来に戻って来てくれました。一息ついて、残りの患者を診察し、昼食（兼朝食？）は午後1時半過ぎになりました。佐藤医師は、新患や院内の紹介患者の診察や指示で、まだ昼食も取れずにおりました。私は、午後2時からの予定されていた患者や家族への病状説明や検査結果の説明を終えて、午後2時半からの手術に向かいました。佐藤医師は、おそらくちゃんと昼食を取ることもなく、午後の膀胱鏡検査や前立腺生検を済ませた後、元気に手術場に来てくれました。麻酔の後、午後3時頃から内視鏡を使った経尿道的手術を開始しました。術中に尿路感染症と思われる患者が他院から紹介となり、手術室に連絡が入りました。発熱も軽度で全身状態も良好のようでしたので、入院とし、補液をして手術が終わるまで様子を見るように指示しました。手術は、幸いにも私の体調とは対照的に、順調に進み、ほぼ2時間で終了しました。その後佐藤医師は、手術患者の家族への説明と紹介患者の指示のため病棟に上がりました。私は、中央手術科長も兼任しており、そのまま手術場に残留して、手術場の看護師長とその日の手術や業務内容の報告を受けた後、業務の不備や瑕疵の善後策や改善

策を話し合いました。さらに、器械の状態や更新すべき器械の順番などについて意見交換をしました。透析室に行って、血液透析を施行した患者の報告や今後の予定を話し合おうと思ったところ、上級医療安全管理専門員より、医療局に上申されたクレームの対応を話し合いたいとの連絡が入り、外来で気の重い話し合いを何とか冷静に行いました。話し合いの後、すぐに透析室に連絡してみましたが、もう透析室の患者やスタッフは帰宅しておりました。佐藤医師が、万事抜きで指示を出してくれていたようで、その日は終日、私のところに透析室からの電話は入りませんでした。そのまま外来で、本日受診した患者の検査結果の確認や紹介患者の返事なども含めた電子カルテの入力や整理を行いました。今は、医療クランクという職種が、我々医師の業務を補助してくれるようになりましたが、新しく泌尿器科に配属されたクランクが、この老境医師のあまりの多忙さに同情、というより呆れておりました。夜も8時を過ぎた頃、病棟での仕事を終えた佐藤医師が書類整理のため、外来に下りてきました。佐藤医師と入れ替わりに、私は今日の手術患者を診察するため病棟に上がりました。幸い肉眼的血尿もなく、バイタルサインも安定しておりました。手術患者とその家族に一言声をかけて、その他の入院患者の回診を一回りしました。病棟の看護師から重症患者の病状報告を受けた後、医局と副院長室に寄って書類とメールを確認しました。まだ外来で佐藤医師が仕事をしていたが、わが老体は疲労困憊で、お先に失礼しました。帰路についたのは、もう9時を回った頃でした。

公舎に帰宅したところ、台所でやりかけの朝食の支度の後片付けが待っていました。御多分に洩れず単身赴任のため、洗濯をしながら、やっと片付けが終わったところで、家内からスマホにラインが入りました。何か食べようとしたところだったので、気力が萎えてしまって返事を打つのが面倒になり、折り返し電話をすることにしました。一通り娘の近況報告を受けたのですが、生半可な返事をして響きを買ってしまい、迂闊にも、今日

一日の仕事の報告と愚痴をこぼしてしまいました。最近家内は、娘が微妙な年頃なので、私に父親の責任を人並みには果たして欲しいと言いついていたところでした。家内は、「もう年なんだから、無理して病気にでもなったら親の責任を果たせなくなるよ。」と言って、早く盛岡近辺の病院に転勤するように促しました。もちろん親戚か、碌に夫の責任すら果たしていないことを重々自覚はしておりましたが、開き直って、「僕が、大船渡病院からいなくなったら、泌尿器科の手術もできなくなるし、たくさんの患者さんが困るから…」と言ったところ、あっさりと、「そんなことないから、あなたがいなくても、ちゃんとなるようになるから。このままでは、きっとあなたは、また倒れてしまうわ。そうなったら、あなたの一番大切な人と過す時間がますます少なくなっていくのよ。娘やわたしを幸せにするんじゃないの？」と、家内に返されてしまいました。

祖母の言葉を借りるまでもなく、（人を幸せにする人だけしか幸せになれない）という不朽の至言を深く心に刻んだ一日でありました。

あっ、夕食も食べ損ねた！ とほほ…。

ちなみにその日は、入浴後すぐにベッドに倒れこみましたが、夜中に他院の透析患者が肺水腫で救急センターを受診し、真夜中に緊急透析を施行。

日暮れて道遠し。

ということで、気仙医師会の皆様には、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。